

## 第2回学校運営部会 議事録

(1)日 時：令和4年5月26日（木）午後7時より、（教育会館 第4研修室）

(2)参加者：委員（7名）（2名欠席）、事務局7名

(3)内 容

①部会長あいさつ

②資料説明及び意見交換

- ・授業を踏まえた特別教室等の配置について
- ・部活動について
- ・中高連携プログラムについて

《部会長あいさつ》（省略）

《資料説明及び意見交換》

（授業を踏まえた特別教室等の配置について）

事務局 ・資料1-1（第1回ワーキングチーム会議（5/11（水）より）、資料1-2（第2回ワーキングチーム会議（5/18（水）より）、資料1-3（授業コマ数→必要部屋数（案））、資料1-4（勝高校舎図（現状））を説明。

委員1 ・勝高の校舎に入れるものを検討していて、新中学校の校舎には何が入るのか全然見えない状況で議論をしている。極力、今あるものを有効に使って、そこに入れるべきものは入れて、不足部分は新しく充実したものを作っていきこうと考えている。精一杯入れるべきものをに入れて、新しく作るものを身軽にしておいた方がいいと感じた。

委員2 ・高校としてはなるべく制限がかかるのは避けたい。どこまで高校として詰められるか、今のところは制限をかけずにやってほしい。

部会長 ・高校生と中学生が交流する場所があった方がいいのか、きちんと分けた方がいいのか。

委員3 ・理科室だけでも高校で4部屋、中学校で3部屋、さらに別の部屋が必要という。何が違うのか全くわからない、わざわざ別部屋を用意しないといけないのか、もう30年前の話で大変申し訳ないが、私たちの頃は7クラスあった。その時はできていたのに今はできない。

委員4 ・例えば理科室でいうと以前と比較できるかどうかはわからないが、どんどん探究的な学びが増えてくると、実物を使った授業が増えてきて、実験等の頻度も上がっていると思われる。ある実験を1回やった時に、他のクラスもやることを考えて準備の道具を並べておくと、他の授業は使えないということも起きてくる。

委員5 ・例えば体育の例でいうと、16時間が選択体育の形を取っているのですが、その時間を全部活動として必要だという考え方だが、それはその通りだと思う。中学校が入っているのも全員が一行に並んで体育をする。場所がないので、こうしかできないのではなくて、可能性として、新しい学校になったら、子供の興味関心に応じて、いろんなバリエーションで授業が組めると、そういう学校を目指したいという前提で議論をしている。中学生がやる気があって、

	<p>こういう実験したいというリクエストに応えられるようなものをしようとする、マックスこれだけのものは欲しいということをお願いしている。数的にギンギンに詰めれば何個で入るといふ議論はしていない。</p>
委員 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのような議論を直接ぶつけてしていただくのは非常にありがたいし、そういったものを資料として出していただけるのはありがたい。許しをいただければこういった資料についても市のPTA連合会に提示をさせていただいて、情報共有という形で頑張っていきたいと思う。ワーキングチームの会議の中で平易な形で誰が見てもわかるようにしていただけるとありがたい。できたら、今後という形でお願ひできないか。</li> </ul>
委員 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最もだと思ふ部分と校舎だけの問題だけではなくてどういふ授業をするかということも並行して考えていかななくてはならない部分がある。</li> </ul>
委員 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方が一生懸命議論して考えていることを見せた方が納得いただける部分が多いのかなと思う。市PTA連合会の中にも賛成の方、特に関心のない方もいるが、「不信感を持っている」と、はっきり言う会長もいる。私の方にも先日南部中学校のPTA会員の方で、もう私は反対派で是非意見を聞いてほしいと話があった。聞かせていただき会議の中にも出させていただけと話をした。このような議論によつてのワーキングチームの内容、部会の内容をPRしたい。わかるような形でお願ひできればと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方は授業が何コマあつて、このように授業をしているからこうなると説明を聞いてもわからないのではないか。具体的にこの部屋をこのように変えろとか、それは中学校の校舎をどうするのかとリンクしている。しかるべき時期にそういう素案をお示しする場が来るといふので学校へ持って帰つて見てもらふ。そういう準備を次に向けてやっていきたい。</li> </ul>
委員 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方が一生懸命議論しているということをおPRしていきたい。できれば、ご協力をお願ひしたい。</li> </ul>
部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校、高校で、例えば机の大きさとか、椅子の高さ方とか。中高が共有することで、施設面で困ることはないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内は高志中高が一緒に生活している。理科室も共用で使っている。特に問題はないと聞いている。</li> </ul>
委員 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科室自体は共有で使っている。教室の机の大きさだけは少し大き目の物を使つたり、椅子の高さが変更できるような物を使つたりしている。特別教室は教室の椅子みたいなしっかりしたものではなくて、四角い椅子とかになつている部屋が多いので、それほど気にはならない。</li> </ul>
委員 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明を聞いて、高校と中学校の授業の中身が変わるといふことで4部屋必要と書いてあるが、勝高の現状の建物で、ここに示すキャパが足りているといふ試算なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どういふ教室の仕様にするかということにも関わる。</li> </ul>
委員 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋を別々にするということをお全部聞き入れた時に、これだけで足りているのか。</li> </ul>

- 事務局 ・議論中でもし足りないことになれば中学校の校舎に持ってくることになる。
- 委員 13 ・まだ中学校側につくれるということか。
- 事務局 ・検討していく。
- 委員 14 ・もう 1 つ別棟を作らなければいけないという議論に至るかもしれない。
- 事務局 ・中学校の校舎の中に足りない部分をいれることを想定している。  
(部活動について)
- 事務局 ・資料 2 - 1 (部活動一覧 (R9 年度) (例))、資料 2 - 2 (令和 9 年度部活動使用施設 (例))、資料 2 - 3 (令和 4 年度勝山市体育施設利用希望状況) を説明。
- 委員 1 ・大前提として、中学校の教員の働き方改革を進めるということがあり、その中で部活動がどうあるべきかは、取り上げざるを得ない問題になっている。今年の 4 月から全国中体連が、学校枠を外したクラブチームも中体連の大会に参加していいという規定を決めた。当然、県、市に降りてということになると近い将来は中学校チームではなくて、勝山チームみたいな形で出てくることも考えられる。そんな時にはしばらくは教員がつかないといけないと思うし、やりたい教員がついてすることについては、何らかの保障の元で、学校の業務とは別に、地域の方々と一緒にやっている形になっていくべきだろう。それを、文科省は地域部活動移行という名前で呼んでいる。全体にそういう方向に進めようとしていて、その議論を片方に置きながらこの議論をする。現状をそのまま移行すれば今のような形かと考えられるが、並行して中学校の部活動をどうしていくのかを議論して、学校だけで子供のジュニアアススポーツを育てるのではなくて、地域あげていろんな方々が子供のそのスポーツの育成に関わる、スポーツだけでなく文化的なことも関わってみんな育てるという環境の中で学校ができてくるのが大事なのではないかという考えもある。この原案を出していただいたあとこれからどうなるかわからないというところで、少し議論が終わっているのが正直なところ。
- 委員 2 ・大きな流れの中で地域移行のスケジュールのようなものは示されているのか。例えば、平和 8 年度を目途にそうやって移行していきましょう、という話になって、部活の時間を 4 時半からとしても指導者は仕事があって間に合わないから部活の時間を 6 時半にしてそれまでは一旦家に帰るとか勉強しているとかは可能になったりするのか。
- 委員 3 ・文科省もある程度の青写真を出している。新聞で時々出ているのが、土日の社会体育移行で、そこには学校の教員が関わらずに、地域の方々が土日の練習はするということのようなことを何年度までにはじめて、それを少しずつ拡大していくという青写真はあるが至って遅い。現状で言うと中部中学校はもう来年サッカー部をもてない。南部と中部が合同チームを組まないで 11 人いない。北部は 11 人ぎりぎり。南部と中部だけの合同チームでいいのか、勝山みんなでするのがいいのかを議論する必要がある。文科省の大きい日本中の流れがある一方で、現実問題としても変えていかないとたないことが近々

	で起こっているという状況にある。
委員 4	・北部が11人でできるのは、サッカーは7人いれば試合が成立することもある。過去にも北部は少人数でやったことがあり、今顧問はやります、子供もそのことを知っているのでやります、とは言いが、11人では考えなければいけない状況にある。
事務局	・国の動きは土日の部活を地域で進められないかということで、平日のことまで言っていない。その方向性では、近日中にとりまとめを出すと聞いているが内容はあまり期待できない。もし令和5年度から土日の地域移行を進めるために、補助など支援が出たとしても、勝山市ではその受け皿はあるのかという問題になる。総合スポーツクラブは勝山に一つだが指導者の確保など課題は多い。他の受け皿としては競技団体が考えられるが、バドミントン協会はあるが他にどのくらいが受け皿になれるか。市町ごとの事情があり地域移行に向かうのは難しいという印象。
委員 5	・一例で言うとサッカーを来年、南部と中部と一緒に平日も何回か練習することになると、1回帰ってどこかに集まるかもう学校が終わったらすぐジャンボタクシーでこっちへ運んでするとかになる。そうなった時に学校である必要はない。もしこの形が本当に実行された時に、おそらくまだ中学校の体育館やグラウンドは全部壊されることもないと考えると、南部と中部の合同サッカーチームは、中部のグラウンドで練習しているということが起こるかもしれない。
事務局	・今、陸上がそのような形ではないか。
委員 6	・鹿谷小やジオアリーナでやっている。
事務局	・ボランティアみたいな感じで指導していただいている。それが維持できるかはなかなか難しいかもしれない。
委員 7	・少なくとも、今年の秋の大会は学校でやることになっている。令和5年度から、県の中体連もクラブチームの参加を認める方向を検討するとなっている。
委員 8	・天気が悪い冬はどうするのか。入りきるのか。野球部サッカー一部2つ、全部屋内になる。3か月間は雪が降るので、そのことも考えておかないといけない。体育館や廊下が込み合うのではないか。
事務局	・雨のバージョンとか、季節のバージョンは、先生方で知恵を絞って考えないといけないと思う。実際に例えば高志中高はやっており、そういう先行事例も参考にしながらどうすると活動場所が確保できるか。現在の中学校にしても、例えば冬になったら、体育館を使わしてほしいということで、いつも屋内の部がずっと使っていることはない。
委員 9	・例えばバドミントンはどこかに行かなければならない。
事務局	・毎日行くわけでもない。
委員 10	・校舎も狭くなる。中学校の現状の三中学校の校舎よりも、面積が小さくなる。そこへ入ると数が多くなる。考えていかないと入りきらないということは起

きないのか。

事務局 ・シュミレーションはする必要がある。ただ生徒数も減ってくる。勝高の校舎も余裕が出てくる。

委員 11 ・高志中高は、単純に高志高校の定員に中学生が増えたのではない。高志高校の募集生徒が、少しずつ減ってきた中で、校舎分に足りうる中学生を募集するような感じではないのか。勝高は1学年7クラスずつの21クラスだった。この想定は1学年9クラスで27クラス。増えた分を中学校と高校に入れていく。もちろん生徒は減るだろうが、できた時にはそれが入りきらないといけない。どんどん減ってくるからと言っても、結局は授業のことでも窮屈ならば、本当に時間割ができるのか。単純に体育館は30コマあるから割り振れると言っても教員のバランスとかいろいろある。最終的にやっていくことだと思うがそういうことをしないと見えてこないこともあるのではないか。毎年同じ時間割りにすればいいと思うが、教員が入れ替わるから、単純にはいかない。その教員の持つクラスが変わるから、本当に大変な作業になる。ある程度こういう目処でできるというものが見えてこない、これで教室は大丈夫だとか見えてこないのではないか。

事務局 ・それも課題だと思う。ワーキングでもしていけないといけないし、意見を出していただけるとありがたい。

委員 12 ・自分も競技団体に入っている。土曜日になると社会人で休みではない人がいて人を集めるのが大変なこともある。部活が地域移行になれば競技団体におろしていただきたい。子供を持っている親は、そのような流れがあることはわかるが、指導者は60代から20代までという形で、幅広い年代になる。もし教えたい、土日だけでもやりたいということであれば、バックアップしていきたい。平日、学校にお願いするときには、こういうルールで行きましょう、というような話は必要になってくると思うので、情報提供を積極的にお願いしたい。

委員 13 ・学校の教員もやりたいという教員もいるし、はじめてでわけがわからない中、辛くてしょうがないという教員もいないわけではない。その事情も踏まえて、競技団体の方々、スポ少の方々、学校の教員と議論をどこかでできないかお願いしたい。

事務局 ・地域移行の話で、勝山がどうするのかという話。市町の教育長会議では、この間もこの話題になって、現状は悩んでいる。国のモデル地域として鯖江市と敦賀市が昨年からあって今年は福井と大野市が研究という形でやっている。鯖江市は総合スポーツクラブが3つある。中学校が東陽と中央と鯖江があって、学校のサッカー部とか5つぐらいの部が分かれてやっているとか、そこはそういう土壌がある。そういう進んだところでも、やっぱり指導者が見つからない、報酬が上げられないとか、そういう面でこれが持続可能かというのは非常に厳しい。勝山みたいにやっていないところが多くて、例えば、関係団体が連絡協議会からまず作って、どういうやり方をしていくか、そこ

	からスタートしようかというのを今考えて立ち上げようとしているとか、立ち上げたとかという、そういうレベル。勝山も考えていかないといけない。
委員 14	・この議論がいきっかけになってると思う。これをきっかけに、みんなでどうやって作っていくのかというスタンスで考えていただくとありがたい。
事務局	・考え方としては、この部とこの部は地域移行できるというものは学校の部活から離すという発想。学校が終わったら、そっちへ行って活動する。
委員 15	・バドミントンは完全ではないが素地がある。
事務局	・バドミントンは地域移行でジオアリーナを使うということになれば同じ状態になる。
委員 16	・体育館をどうするのかわからないが、そういうところには、今ある中学校の体育館を逆に専用体育館みたいな形で、1年中そこは使えるようにする。5つの体育館を維持していくのは大変だと思うが、ジオアリーナの部分は学校使用に協力してもらい、その分今まであった体育館とかグラウンドは社会体育で、優先的に使う流れにするとどうか。今の中学校の体育館を社会体育として使うには十分だと思う。
部会長	・子供のためにジオアリーナを空けてもらって、社会体育の方に各地域のところを開放する方がいい。子供が移動するのは車もないし大変になる。学校周辺の施設を子供たちに優先的に使わせてもらい、そこに重なっている社会体育は今の中学校とかその周辺のところで、大人の方が移動しやすいところを動かしてもらおう。部活のあり方とか、地域とのすり合わせが必要な部分かもしれない。次回のワーキングの方で、提案していただけるといい。
委員 17	・雨や冬期のパターンを、書面にするのはすごく難しいがシミュレーションしたものを作っただけならと思う。運動部の親はすごくこれ気にしている、すごくこの意見がたくさん来る。一言も答えられないんで、時間かかってもそういうシミュレーションをして、一度書面でおこしてもらえないか。中部中、南部中体育館などを移動して使うこともあると思う、いろんなパターンの中から一つ。
事務局	・ワーキングチームからもそういう意見をいただけるとありがたいし、例えば中学校の部活時間と高校の部活時間がちょっとずれたりとかする問題もあるし、部活休止日という日もある。1週間、月から金まで全てやるわけでもない。
委員 18	・例えばサッカーは1週間、月曜日から金曜日のうち、5日間のうち3日間だけ体育館を使う。別にそんなものでもいい、3日間のうちの1日はどこかの教室の中で筋トレをする、ミーティングをする。見えるものがあればと思う。
	(中高連携プログラムについて)
事務局	・資料3(中高連携の柱(案)、参考資料)を説明。
委員 1	・保護者の皆さんの時にはなかった総合的な学習の時間、高校は総合的な探究の時間という名称だが、最低週1時間あり、いわゆる探究的な学びを進めて

いる。この新聞記事については、以前だと現代社会と呼ばれていた科目が公共という名前が変わった、その公共の授業の中で、探究的な学びをする。福井新聞とのコラボでやらせていただいているものを、記事に取り上げていただいた。実は昨日も一昨日やったことについて大きく取り上げていただいている。この時間は勝山市の土居さんという職員と、越前市のボルガライスに絡んでいた職員の方の話を聞いて、政策ってこういう風に考えているんですよ、政策を作るっていうのは、こういう風に考えて、ボルガライスってこうやって売り込んでいったんですよとか、そういう具体的な実物の話をさせていただいて、授業の中で自分たちの政策を考えていく。そういうことを個人で自分の関心のあるテーマを見つけて、自分で問い、その問いに対して答えを出していく、それを政策として発表する、昨日はその部分である。クラスで発表して、クラスの代表が体育館で発表して、その代表者について模擬投票する、どこの政策に投票するか、それが昨日だった。授業の中でやったが、もちろん探究的な学びとして行った。別に、先ほど言った総合的な探究の時間でやっているのも、それぞれの個人の関心のあるテーマを見つけて、それについて仮説を立てる、理科系の内容だったら、実験とか検証とかも含まれる。社会科系だったら、例えばフィールドワークに出かけて行って、いろんな人に話を聞くとか、もちろん書籍等も調べるが、課題に対して答えを見つけてくる。それをプレゼンで発表したりとか、論文でまとめたりとか、そういう活動していく流れが今の高校の探究の時間でやっていること。探究特進科はそれを週3時間、普通科は週1時間する。探究特進科はより深くやる。2年生からは1年の間に3年分の3単位、総合的な学習の時間をやってしまった後は、学校設定科目という特別な科目を作って、2年生で3時間、3年生で2時間やることになる。

- 部会長  
委員 2
- ・県内の高校でいろいろな動きがあるが何か理由があるのか。
  - ・時代背景的にいろんな職業がなくなりAIにとってかわり、いろんなことに対して、ルーティーンでやるような部分がAIや機械化されて減っていくと、これから必要な資質能力というのは、自分で探究して、仲間と議論して、それで方向性を決めていくような力が必要だと文科省の方針にもある。そういう中で探究活動をするのは一番資質能力が育つだろうというのが時代の流れ。
- 部会長  
委員 3
- ・全国的には高校が探究学習への進みが早く進んでいるのか。
  - ・新指導要領にうたわれてきたので、勝高もそうだが学校の魅力化として新しい学科として取り組んでいるし、県内にも5校ぐらいある。
- 部会長  
委員 4
- ・入試とか、進路に関係するのか。
  - ・将来自分が何をやりたいかと重ね合わせることができるので、自己理解しながら、自分はこういうところに興味関心があるんだなというのも、自分を理解していく中で見つけていける。出口の目標に向かって、探究テーマを設定しながらやっていくという流れを考えると、高校は大学で学ぶことをイメー

ジすれば、この学びを目指すために、私はこんなことを高校でやる、大学受験も大学でこういう勉強がしたいので高校でこういう勉強をしてきました、自分でこういうテーマを持って研究してきました、だから大学でこんなことを学びたいんですとなる。それを、大学の方でも受け止めるような入試制度がどんどん入ってきている。ただの一般入試だけではなく総合型選抜入試とかそういう流れに切り替わっている。

部会長 ・福井大学もそういう面では、入試が今だいぶ変わってきているのは間違いない。教育学部では嶺南の地域枠を今年から設けたが、高校時代から教員になるためにいろんな授業を学んでもらって、それに対して面接とかレポートで聞く。今までの知識理解の入試からなぜ教員になりたいのかとか、教員になるために、どんなことを高校でやってきたかとか、それに、自分がどんな問題意識を持って、大学で学びたいのかっていうことを、入試の中心テーマに掲げている。今高校が全国的にぐっと変わっているのは、やはり大学の入試の仕組みが大きく変わってきているからで、高校が非常に早く動き始めているのかなという感じはする。県外の私立高校も盛んに動いている。ある私立に行ったときに、就職する生徒たちがいるので発表会の後ろに企業の人事担当者が来ている。私の話が終わってから大企業の人事担当者が高校のこういう探究型を就職する生徒でどうやって見たらいいのか。今まで15分ぐらい面接して就職を決めていたが、それでは見られないというような質問が増えてきている。つまり、3年間こういう勉強してきた高校生を企業は欲しい、でもどうやって見たらいいのか、面接で見抜かれない。大学入試も企業の就職もかなり変わってきている。今までのいろんな取り方では、もう人材として困っているのか、高校とリンクしてどういうことをしていくのかを注視している。

委員5 ・高校の探究の中で、中学生と連携するのはどうしたらいいだろうと議論していただけないか。中学生と学校づくりの部分でこんなことをやってほしかったみたいなことを聞けるとありがたいと思う。

部会長 ・中学生にとっては、高校の大きな変化をどう受け止めていくのかは一番の問題。新しい探究を柱にした中学校との接続部分をどうしていくのか。

委員6 ・中部中学校は去年、北出校長先生に来ていただいて、大学入試改革のことを教えていただいた。その元々の話としてなぜ探究特進科を作るのかという話があって、ごく簡単に言うと探究をすれば大学に進む道が広がる、その学科ができたという話をしていただいた。実は勝山市が10年前に環境自治体会議を受けた時に、自分は北部中にいたが、探究的な活動と似たようなことをした。ちょうどNIEという新聞を使う勉強も取り入れたところで、全国発表した時に、こういう活動は子供の力を伸ばすということを実感していた。しかしなぜ花を咲かさないか、そこまで育っているのになぜ次に続かないのかというと、それを評価する制度がなかった。やはり高校は受験で勉強ができなくてはいけない、それしかなかったのが、10年遅れでその制度がよう

やく入ってきたという印象。だから、勝山は本来こういうことを先駆的にやっていた。小学校が、その地域のいろんな活動に参加させてもらったり、さまざま経験を積みしてもらったりして、それを中学校も拾って、さらに磨きをかけていけば高校に繋がったはずだったが、それがなんとなく消えていくような、あんまり元気が出ないような状況だったというのが実感。だから、今こういった形で勝高と中学校が連携を始めたということは、非常にいいチャンス、勝山が子供たちが一番伸びていく道ではないか。

2点目の話は校舎とか教育方法というのは、我々の力ではどうしようもないが、連携はもうできるし、実はもう始めている。中中の連携は去年からいろいろ議論をして、中学校と一緒にいろんなことをするというのを進めている。中高の一例として勝山高校の探究の生徒数人が作った課題は「小学校の英語は楽しかったのに、中学校の英語は楽しくなくなったのはなぜだ」という課題だった。それを調べるために、中学校の先生の授業を見せてくださいとなり、中学校の先生は授業研究をして、中学の授業も面白いとわかってもらった。生徒たちが考えた結論は、もっと早くから英語教育をしないとイケないと結論を出したようだ。それが縁でその生徒にきてもらって、中部中執行部の校則改正の話聞いてもらった。鞆が重いので学校に置いておいてもいいようにしてほしい、またタブレットが入っていると非常に重いということで、いわゆる置き勉をやりたい、先輩どう思いますか。と聞いた。高校生は先輩として話すし、中学生は憧れの目を持ってしゃべる、大変よかったし一つのやり方だと実感した。こういった形で勝高とは仲良くさせていたでいるし、交流は議論を待たずに始めたいと思っている。

- 部会長
- ・入試が変わる原因があったのかもしれない。
- 委員 7
- ・わけのわからないことをやるのではなく、やっぱり数学で点数をとらないとイケない、高校で点数をとらないとという意識が大半ではないか。しかしこれからはそれだけでは生きていけないというのが大前提にある。
- 委員 8
- ・ぜひそういう事例を資料に乗せていただけるとありがたい。いろんな連携は始めている、模索していく中でよい方向を探していくとPRしてほしい。
- 部会長
- ・中高の連携校になると、入試はどのようになるのか。
- 事務局
- ・連携型という国の制度がある、簡便な入試で5教科の試験をせずに進学する仕組みがある。金津、丹生、美方と県内で3地域あるが、共通しているのは連携クラス、連携クラスの方は入ったら必ずその高校へ行きますというクラスで、入らない生徒はどの学校に進学してもいい。それを念頭に置いた時に勝山でこれを入れていくのはいいが、議論しなければいけないのは、勝山でやる時には連携クラスを作る方がいいのか、作らない方がいいのか。中学校が1校になってしまうから、1校の中学校で連携クラスを作るということと、金津は中学校が2つあってそれぞれにクラスがあることを比較して検討しなくてはイケない。個人的には、連携クラスみたいなものは作らない方がいいのではないか。ただ、その時に勝高に簡便な入試で入れるところをどの

	<p>ように仕組みを入れるか、これは別途考えなくてはいけない。高校や県教委と相談しながら進めていきたい。</p>
委員 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近学校に行けない、いろんな理由で行かない子が増えてきている。学校に行かない分、学力が落ちぎみになる。この子らが高校をどうするのかという時に、入試で今まで点数だったところが、その子らに対してこれが得意で探究をやることで進学する道が開けるのかなと思う。そういう子らに対する道しるべができたのではないか。</li> </ul>
委員 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別教室を先ほど見て、空き教室が小学校特にうちは全然ない。子供たちがちょっと落ち着くための教室が、最近本当に必要になる。授業中いろんな子がいて、クールダウンするためのいろんな部屋が必要で、高校の方に教育相談室がたくさんあるのはいいと思う。小学校も余裕のある相談室にもなる部屋が必要かなと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの説明の中で中学生と高校生が一緒になって勉強するとか、交流すると、中学生の子が萎縮してしまうとか、高校生がいじめるのではないかということに心配する意見があるがどう思われるか。</li> </ul>
委員 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際1件聞いたことはある。福井方面に通っているが、電車もバスも高校生と同じだし、特に問題はない。都会では小学生、中学生、高校生、幼稚園までいて当たり前ではないか。</li> </ul>
委員 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の勉強する内容は個人バラバラでやり、学校の教室にみんなが前を向いて座って、先生が前に立っている勉強のやり方ではない。それぞれがいろんな地域の人とか、いろんな人を先生に引っ張ってきて、勉強する形になる。先進的な新しい学校の様子をみると、地域の人が学校に入ってくるスペースが作ってある。そこから教室を行ったり来たりする状況になってくると、単に中学生と高校生だけではなくいろんな人がいるという状況になってくる。昔自分達がいた学校とはちょっと様子が違う感じがしてくるのではないか。そんなものを目指すべきではないかと思う。</li> </ul>
委員 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーチューブを見たが、勝高生は本当に後輩にたくさん入ってきてほしいと思っているのか。</li> </ul>
委員 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もちろん思ってる子が大方で、うちの学校はいい学校だからというプライドを持っていて、ぜひ来てよという気持ちでいる。</li> </ul>
委員 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その気持ちを上手に伝えるのが、高校生にとっても勉強だし、中学生にとってもプラスの面で、それがその場でできる。態度で見せることができたり、行事で見せることができたりすることが、高校生にとってもプラスになる。それで、高校の魅力が上がるのが連携の価値ではないか。高校の勉強を1年早く教えてもらえることも大事なかもしれないが、人間的成長、先輩が後輩を導くとか、そういう色を出せていくと、またいい連携になるのではないか。勝山の町のいやなところもある、それを直していくチャンスだと思う。みんなで、この1つの学校で、1つの方向でやっていくことによって、人間性を変えるチャンスかなと思う。先輩たちは中学生に来てほしい学校を</li> </ul>

作るんだし、中学生は変えてほしいところを探究ですればいい。3中や中高で討論会をする。そういう学校もいいのではないか。

事務局 ・新中学校は9年度スタートだが、今できるこの体制でも高校生と中学生がいろんなことで交流することをやっていき積み上げていけば、自然とスタートの時には形ができています。

部会長 ・今日は非常に大事な話だった。少し中高の新しい学校のあり方が見えてきた。

事務局 ・今後は来週が全体会で今日の意見を提示し、ワーキングチーム会議にフィードバックしていく。あくまでも予定だが、6月下旬ぐらいに次の専門部会ができるという。

資料1-1. 第1回ワーキングチーム会議(5/11(水))より

資料1-2. 第2回ワーキングチーム会議(5/18(水))より

資料1-3. 授業コマ数→必要部屋数(案)

資料1-4. 勝高校舎図(現状)

資料2-1. 勝山高校・勝山市内中学校の部活動一覧(R9年度)(例)

資料2-2. 令和9年度部活動使用施設(例)

資料2-3. 令和4年度勝山市体育施設希望状況

資料3. 中高連携の柱(案)

参考資料 探究に関する新聞記事→著作権の関係上、公開不可